恐ろしいシンナー遊び

慢性化すると精神障害に

県警本部長から表彰

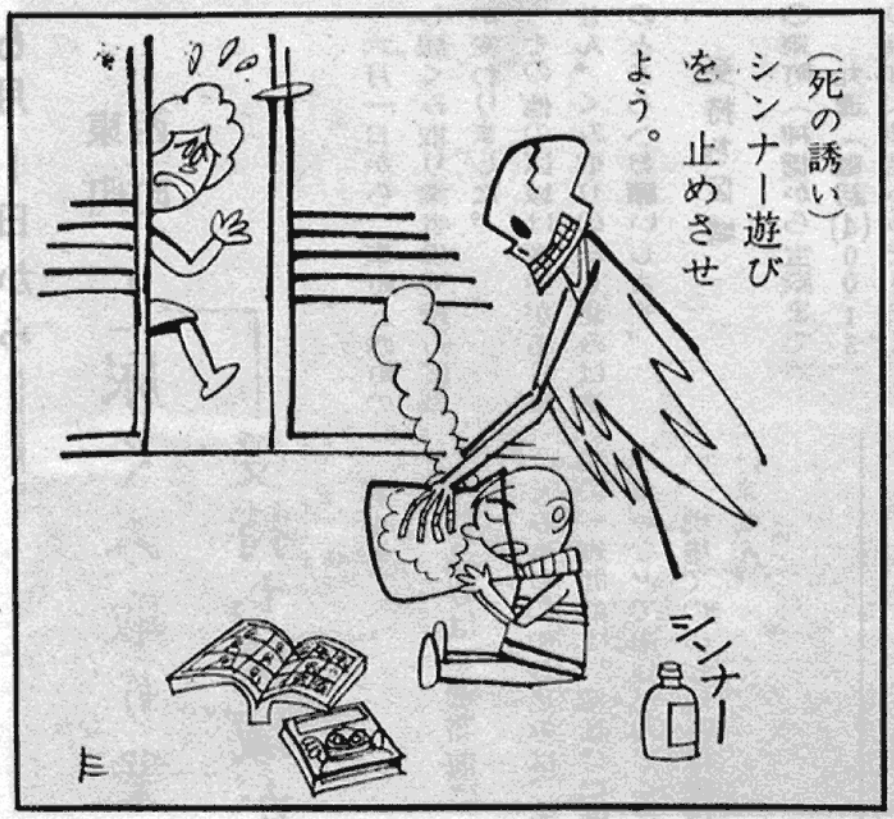
青少年補導協力で小池允博氏

栃木県では、昭和四十年に足利市内で、はじめてシンナーを乱用する少年が発見され、その後シンナー、接着剤などの有機性薬物を乱用する少年が急増、昨年度は県下で六五〇名が補導されており、その流行は、全県下にひろまってきました。

使用される薬物も、シンナーからプラポンド、セメダイン、コンタクトなどの接着剤に移行してきたため、文房具店、プラモデル店などで簡単に購入されています。

これらの薬物は、胃腸や肝臓造血器管に障害をおこすばかりでなく、中毒すると頭痛、はき気、不眠、めまいなどいろいろな障害が起り、中枢神経がおかされ、精神障害を起すこともあります。

このような恐ろしい遊びを、おとなたちの手で絶滅すをようご協力ください。



青少年の補導に保導委員として三十八年から七年間にわたり協力してきた小池允博氏（山内東照宮権祢宜）に、北野県警本部警視長と横川県防犯協会連合会長から表彰状が贈られました。

表彰式は四月二十一日県警本部で行なわれましたが、小池氏は、日光警察署に青少年補導委員会が発足した昭和三十八年から、補導委員として青少年の健全育成に協力されており、昨年から同委員会の委員長を勤められています。

青少年の非行化は、近年の大きな社会問題となっていますが本市の場合、市内在住の青少年だけでなく、観光地として外来の青少年に対しても適切な補導が望まれるわけで、小池さんら補導委員の今後の活躍を期待するとともに、わたくしたち市民の協力で青少年の非行化を防止したいものです。

市史編さん室だより

慶応年間にあった新聞

江戸時代には、今の新聞に代わるものとして、瓦版というものがあったのは私たちの知るところですが、これは一枚刷りのものであり、町の中を節を付けて売り歩いたので又の名を「読売」といったということです。

瓦版の他に、木版のものもあったそうですが、これが発展して今日の新聞型態を整えてきたのは明治時代に移ってからのようです。

すとおり、内外の記事が載せてありますが、今日の直接取材でなく、他からの受け売り記事にはやむを得なかったろうと思います。

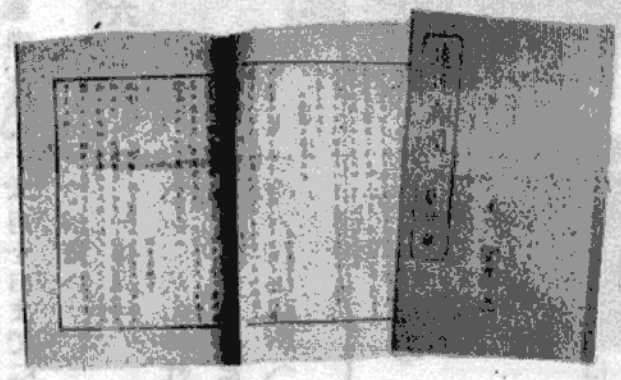
記事の一部

定価一匁の「遠近新聞」

今回は慶応年間（同年九月明治と改元）すでに新聞の名称を冠した「遠近新聞」と言うものが発刊されていたものをご紹介します。

発行日は慶応四年（一、八六八）五月十八日、号数は第二十号、半折りの七枚つづりで大きさはA5版くらいの木版刷り　表に「定価一匁」の長方印が押されています。

記事内容は、遠近の名が示



「日光より燹府の咄」

国内記事としては「日光より燹府の咄（はなし）」の見出し、主として会津戦争の様子がですので、その部分をここにご紹介します。

壬生城下に土州人数旅宿いたし三百人程と申す事

今市にて土州人数三百人程と申す事

土州人数五百人程江戸より大田原へ向い出立し草加宿にて行違い候事

日光今市辺度々少々づゝの戦争これ有り鉢石町彦根人数大略今市辺へ引揚げ候、是は小佐越の会兵より戦争仕掛け候に付き土州より攘促これ有り候由

去月二十五日

大田原において大戦争これ有り会兵勝利と申す事にご座候

「高野家保存のものより」